

サーバントリーダーシップ

2022・4・6 重枝 一郎

私たちは、「よりよい学校にしたい」「生徒のためにエネルギーを使いたい」と思っている。この思いを大切にしたいチームづくりをみんなですべてしていくことが、私たちのモチベーションを高めていく。そこでリーダーが発揮したいのが、**サーバントリーダーシップ**になる。当然私のリーダーシップの取り方になるのだが、各部署、各学年等々、私たちのチームには小チームがいくつか存在する。そこでのリーダーシップにも当てはまり、またはクラス経営にも通ずる考えにもなる。

サーバントリーダーシップとは、アメリカのロバート・グリーンリーフ博士が提唱したリーダーシップ哲学で「支援型リーダーシップ」と呼ばれる。具体的には、リーダーから意義や目的を周知する（私が言う“方向感”）。メンバーの理解や納得が得られ「これならできそう、やってみよう」という感じになってきたところで、**その意義や目的に関わる取組の権限や責任をそれぞれのリーダーにもってもらうようにする**。そして、それぞれのリーダーのアイデアや思いを生かしていく。私は、「信じて、見守り、支える」役割にシフトチェンジする。

そのことによってチームは何を得るのか？それは、チーム内にチャレンジが認められる雰囲気や安心感が得られ、リーダー、メンバーそれぞれの立場で学校をよりよくしていこうという**自律分散型のチームに成熟していく**。私は、やりがい、働きがいを感じながら仕事に取り組むことが最も大切であると考えている。つまり、これが目指す働き方である。

ただ、そうはいつでも仕事に追われる日常からくる疲弊感はあるだろう。いくら「メリハリをつけて」とか「早く帰られるように」とか言われても、「仕事の量が変わらないなら無理です」「今さら働き方を変えるなんて面倒だ」と思うこともあるだろう。

私が大切だと思うのは、**ポジティブなマインドセット**して仕事をしているかということである。少しでも自分の描く理想の働いている姿をマインドセットしチャレンジしてほしい。教科指導においても部活動指導においてもマインドセットが重要だと常々言ってきたと思う。「〇分後になりたい自分」をマインドセットすることが学習効果を高める。そしてそれを指導者やまわりと共有しておくことより効果を高める。つまり、私たちの仕事の仕方でも自分のマインドセットをまわりの同僚と共有することも大切になる。

実は、今年度から作成してもらう「**目標管理シート**」は、そういった意義・目的になる。特に、④「生産性の向上」の区分では、自分がどういう働き方をすれば、生徒の前でベストパフォーマンスを発揮できるか考えてほしい。例えば、週1回は定時退校日を独自につくるとか、積極的に外部の研修会に参加してモチベーションアップを図るとかいろいろ考えてみてほしい。

ちなみに、「ベストパフォーマンスを発揮する4つの時間」を下表に示す。

1	体を満たす時間	十分な睡眠時間と食事時間のこと。日中の集中力と活力がわき、より濃い仕事ができる。
2	心を満たす時間	ひとりで、友人と、家族と、新しい出会いなどリラックス・ワクワクの時間。とにかく自由な時間のこと。フル充電して教壇に立とう。
3	頭を満たす時間	研修会、勉強会、読書などの時間のこと。業務ではなく、 自分のお金と時間をわざわざ使う学びの時間。
4	その他の時間	育児や介護のほかに、家事全般、自分の通院などの時間のこと。この時間を慌てず過ごすことで生活が整い、気持ちが整う。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」

つながりを大切にする本校の建学の精神を裏切ることなかれ。

つまりみんなで今年もつながる。新しい仲間のことも含め、よろしくをお願いします。